

創立 30 周年を迎えるジオ・ラボ中部の紹介

An Introduction of Geolabo-Chubu greeting the 30th anniversary

小川 博之 (おがわ ひろゆき)
中部土質試験協同組合 理事長

坪田 邦治 (つばた くにはる)
中部土質試験協同組合 専務理事

1. はじめに

中部土質試験協同組合は、中小企業近代化促進法に基づく構造改善事業の一環として、中部地域の地盤調査会社が協同出資して、1979年12月に創立され、2009年で30周年を迎える。設立当時は、組合員25社で発足したが、現在は組合員18社、準組合員15社で構成している。

創立以来、当組合は2箇所の試験室に分かれて業務を行っていたが、2004年に現在の地に統合が完了したことから、より効率的な作業が可能となった。また、当組合は、統合の記念として、正式名称とは別に、「ジオ・ラボ中部」を特許庁に商標登録したことから、当組合の愛称として広く用いられることとなった。

また、技術顧問として、植下 協 名古屋大名誉教授が1995年に就任され、高い品質の地盤材料試験のデータを提供し、社会貢献できるように、職員一同心がけている。

2. 当組合の土質試験の代表例

土質試験では、地盤材料を用いた物理試験ならびに静的および動的力学試験まで幅広く対応している。その中でも、表-1に示すような粗粒材料を含む土質試験に適応していることが特徴の一つでもあり、組合員の各種要求に答えている。なお、大型三軸試験においては、名城大および名古屋大等の研究用土質試験にも協力している。

3. ジオラボネットワーク

ジオラボネットワークは、各地に設立されている全国地質調査業協会連合会傘下の土質試験協同組合が相互技

表-1 粗粒材料を含む土質試験（中型～大型）の代表例

試験名	地盤工学会基準	供試体径(mm)	試験機数・仕様
		(試験条件)	
中型三軸圧縮試験	JGS 0521-0524: 2000	75, 80, 100, 150	3連同時載荷 セル4台
		(UU, CU, CD, C \bar{U})	
大型三軸圧縮試験	JGS 0521-0524: 2000	200, 300	単軸載荷 セル3台
		(UU, CU, CD, C \bar{U})	
石分を含む地盤材料の粒度試験	JGS 0132: 2000	—	75mm以上含
大型締固め試験	JIS A 1210: 1999	200, 300	1台
大型透水試験	JIS A 1218: 1998	200, 300	ϕ 300: 3台, ϕ 200: 2台
大型圧密試験	—	200, 300	ϕ 300: 2台, ϕ 200: 2台

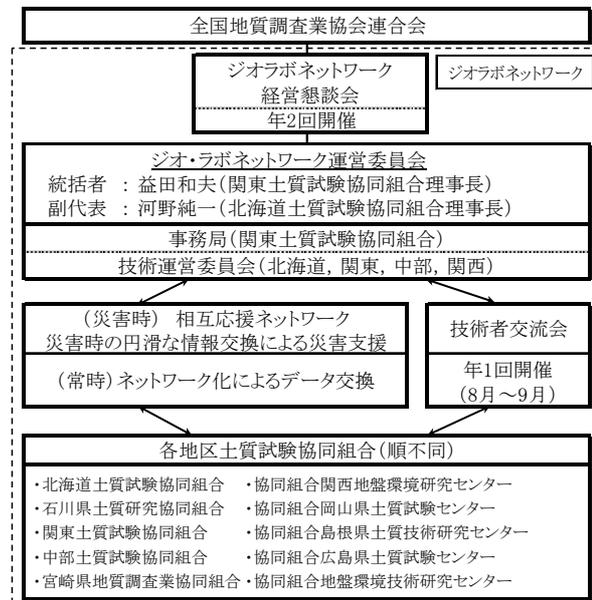


図-1 ジオラボネットワーク

術協力を行うと共に、業務の円滑な稼働や技術向上を目指すネットワークである。北海道から九州まで全国10組合でネットワークが構築(2007年6月)されている。

このネットワーク化(図-1)によって、技術情報の交流、繁忙期の通常業務の融通のみならず、大災害時には相互救済し、被災地域の円滑な復旧対策に貢献することが可能となった。市民生活の円滑な復旧のために、災害の発生時には、是非ご活用いただければ幸いである。

4. 土質試験見学会、技術講習会等の紹介

当組合が主催または共催している最近の主な土質試験見学会、講習会等について代表例を紹介する。

4.1 第4回ボーリング+土質試験見学会 (2008.7)

- ・主催：(社)地盤工学会中部支部
 - ・共催：中部地質調査業協会、ジオ・ラボ中部
 - ・見学会内容：前半は、地盤調査の現場作業の研修(ボーリング、標準貫入試験、サンプリング、原位置試験など)を中心としている。
- 2008年の参加者は、名大・名工大・名城大を中心とする学生75名を含めて、全員で120名であった。



写真-1 浅岡 顕 名古屋大教授による熱心なご講演

後半の部は、同敷地内で、試験所の見学を行い、68名が参加した。開催は4回目を迎えたが、毎回多くの参加者が、地盤調査の現場実務と土質試験について理解を深めている。今回は、試験所近隣の住民にも案内したところ、少数であったが、主婦の方も前半・後半を通して参加された(口絵写真-9~13)。

4.2 第13回技術講習会+土質試験見学会(2008.12)

- ・主催：ジオ・ラボ中部 ・協賛：中部地質調査業協会
- ・講習会概要：当組合では、地盤調査の発注業務に携わっている技術者を主たる対象として、土質試験への理解を得るために技術講習会を2年に1回開催している。

参加案内は、中央官庁(国交省、農水省ほか)、独法、愛知県、三重県、岐阜県、静岡県および各県内市町村技術者を対象として募集している。第13回は講師に浅岡顕 名古屋大教授を招き、「液状化の謎に迫る—地盤工学のアプローチ」と題した講演をいただいた(写真-1)。145名と多くの参加者があった。従来から、この技術講習会の話は、中部地域における著名な先生方をお招きし、社会の関心の高い話題を提供している。今回は、土質力学の基本から、GeoAsiaによる解析結果を動画で紹介いただいた。非常に内容が濃く、また熱心なご講演は、多くの参加者から感動を得て、技術講習会の開催に対し、高い評価を得た。

この講習会の終了後、土質試験見学希望者(94名参加)は、講演会会場からバス2台で試験所に移動(移動30分間は、土質試験ビデオ講習で概要把握)し、3パーティのローテーションにより見学を行った。見学会後のアンケート(回収率80%)は、土質試験の実際を確認でき非常に有意義であったとの回答が多く得られた。

4.3 中部ジオ・テク塾(2008.11, 2009.2)

- ・主催：ジオ・ラボ中部
- ・後援：(社)地盤工学会中部支部、(社)地盤工学会技術者教育委員会、中部地質調査業協会
- ・開催概要：この塾は、中部地域の今後を担う技術者育



写真-2 植下 協 名古屋大名誉教授による熱心なご講演

成を目標として、2008年11月より開始した¹⁾。地盤工学の豊富な経験を有する先輩方を講師にお招きし、講演および意見交換を行い、「技術の伝承」を図るものである。

現役技術者が、地盤工学の必携情報を効率的に修得するとともに、事務局としては、現場の貴重な技術的情報・体験が円滑に伝授されるような塾に成長させていきたい。

第1回は、当組合の技術顧問である植下協先生が、「濃尾平野における地盤沈下とその対応」と題して講演した(写真-2)。質疑応答では、地盤沈下対策のご苦労とご経験に関するお話をいただいた。ご講演資料には、中部地方整備局から取り寄せた最新情報²⁾も含まれており、31名の参加者にとり、非常に有意義な塾を開催できた。第2回は、栗原則夫氏(西日本高速道路エンジニアリング関西(株)社長)が、「現場の知とは何か³⁾」を中心とした東名・名神および道央道における「JHの軟弱地盤技術」と題して講演した。「設計要領における安定と沈下」、「設計とは」などの考え方を具体的に解説された。また、意見交換では、現場体験が非常に重要なことを説明いただくなど、若い技術者にとり、今後の調査業務の取り組み方⁴⁾を含め有益な情報をいただいた。今後も継続して、年4回の頻度で開催する予定である。

参考文献

- 1) 地盤工学会(技術者教育委員会, 継続教育システム委員会, 技術普及委員会): 地盤工学教育—技術の伝承—, 地盤工学会の取組, 地盤工学会誌, Vol.57, No.1, pp.10~11, 2009.
- 2) 東海三県地盤沈下調査会: 平成19年における濃尾平野の地盤沈下の状況, 平成20年8月.
- 3) 栗原則夫: 現場の知とは何か—JHの軟弱地盤技術の方法とナレッジメント—, 丸善京都出版センター, 2004.
- 4) 栗原則夫, 今村遼平: 地盤技術論のすすめ—地盤技術者のもの考え方—, 鹿島出版会, 2008.

(原稿受理 2009.1.19)